

株式会社 油研

☎ 本社 0584-71-1888
☎ エコウッドパーク 0584-71-4405
✉ info@yuken-gifu.jp

今月の話題

新入社員が4名、入社しました！



小暮 麻心 (こぐれ まみ)

【大学】福井大学院工学研究科繊維先端工学専攻
【出身地】岐阜県各務原市
【好きなこと】踊ること、絵を描くこと

物心ついたところから踊りに明け暮れ、大学ではよさこいのサークルに所属していました。身体を動かすことが好きで、食べることも大



佐藤 僚祐 (さとう りょうすけ)

【大学】日本福祉大学経済学部経済学科
【出身地】愛知県大治町
【好きなこと】サイクリング、家庭菜園

初の一人暮らしで、大変ながらも楽しい日々です。特に、料理はしていくうちに楽しさを感じてきています。サイクリングでは、色々な所に行っています。住む場所が変わった分、行ける場所も変化し楽しくなりそうです。



鈴木 康隆 (すずき やすたか)

【大学】新潟経営大学経営情報学部経営情報学科
【出身地】愛知県岡崎市
【好きなこと】アニメ(主に深夜帯)、自転車

4人の中で唯一のエコウッドパーク勤務です。いろんなことに挑戦していきたいと思います。小学二年生から大学まで器械体操をやっていた



箱崎 ビアンカ (はこざき びあんか)

【大学】名古屋学院大学外国語学部英米語学科
【出身地】愛知県豊橋市
【好きなこと】飼い犬・猫と過ごすこと、ダンス

まだまだ分からないことや知らない日本のマナーがたくさんありますが、1つ1つ覚え身につけていきたいと思っています。ポルトガル語も話せますので、なにか知りたいことがありましたらいつでも

2018年度は、4名(男2:女2)の新入社員が入社致しました。これからもよろしくお願い致します！

注！目

車輛紹介

11t ウイング車

あります！



荷台寸法

2.20(m) × 9.25(m) × 2.35(m)

積載重量 13.700t



積載可能な物

- ・フレコン(1 m³フレコン 9体/列) × 2
- ・ドラム缶(15個/列) × 4
- ・パレット類(1.1 × 1.1パレット 9枚/列) × 2

産廃最終処分場数が減少

残存容量は微増、立地偏在

2015年度実績、環境省まとめ

環境省が4月16日に発表した「産業廃棄物処理施設の数、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況(2015年度実績)」によると、産業廃棄物最終処分場の件数が減った一方で、残存容量は微増となったことがわかった。産廃処理業・特別管理産廃処理業の許可件数も前年度比(14年度比)で減少しており、18年現在の状況と照らしても業界が転換期にあることが浮き彫りになった。

処理業許可件数も微減

産廃処理施設については、中間処理施設が1万8726件で最終処分場が1803件だった。中間処理施設が前年度比で64件増加しているのに対し、最終処分場は前年度比で24件減少している。中間処理

施設数は総じて横ばいあるいは微減となったが、廃プラスチック類や木くず・がれき類の破碎施設については廃止も多いがそれ以上に新規設置が多く、わずかながら増加した。最終処分場数については、遮断型は横ばいだったが、安定型と管理型ともに微減となった。一方、残存容量をみると、遮断型が3万1146立方メートル(前年度9965立方メートル)、安定型が6087万4025立方メートル(同6014万1434立方メートル)、管理型が1億645万810立方メートル(同1億589万3423立方メートル)といずれも若干増減している。産廃処理業許可取得の件数は前年度比で292件減少し、特別管理産廃処理業が前年度比で292件減少し、ともに減少傾向を示している。行政処分については報告徴収が6556件(前年度比で1872件増加)、立入検査が19万4324件(前年度比で7842件増加)、産廃処理業の許可取得の件数は前年度比で325件(前年度比で5件減少)、特別管理産廃の許可取得の件数は前年度比で12件(前年度

比で1件増加)、産廃処理施設の数については、産廃処理業の許可取得の件数は前年度比で44件(前年度比で3件増加)、改善命令が38件(前年度比で5件増加)、措置命令が5件(前年度比で7件減少)だった。

比で1件増加、産廃処理施設の数については、産廃処理業の許可取得の件数は前年度比で44件(前年度比で3件増加)、改善命令が38件(前年度比で5件増加)、措置命令が5件(前年度比で7件減少)だった。

今環境省がとりまとめた調査では、16年4月1日現在の全国と

首都圏(1都7県、近畿圏(2府5県)の産業廃棄物最終処分場(遮断型、安定型、管理型)の残存容量と残余年数(推計)も明らかにしている。

これによると、全国の残存容量は約1億6736万立方メートル(残余年数推計16.6年)、首都圏は約1532万立方メートル(同4.8年)、近畿圏は約2825万立方メートル(同20.5年)となっており、最終処分場が全国で偏在している状況がわかる。

データでは触れられていないが、例えば直近の首都圏の最終処分事情をみると、管理型

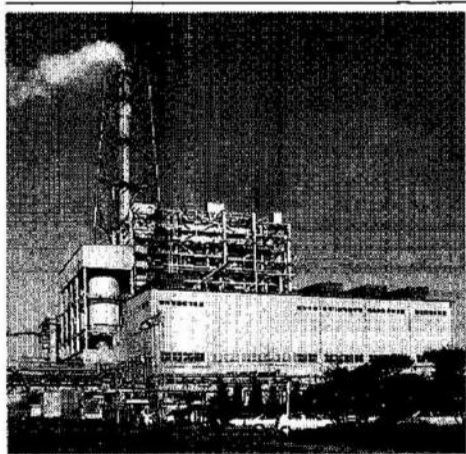
の残存容量は約1億6736万立方メートル(残余年数推計16.6年)、首都圏は約1532万立方メートル(同4.8年)、近畿圏は約2825万立方メートル(同20.5年)となっており、最終処分場が全国で偏在している状況がわかる。

データでは触れられていないが、例えば直近の首都圏の最終処分事情をみると、管理型

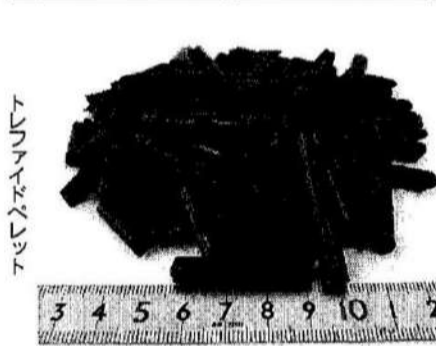
の残存容量は約1億6736万立方メートル(残余年数推計16.6年)、首都圏は約1532万立方メートル(同4.8年)、近畿圏は約2825万立方メートル(同20.5年)となっており、最終処分場が全国で偏在している状況がわかる。

データでは触れられていないが、例えば直近の首都圏の最終処分事情をみると、管理型

2018年
4月23日
循環経済
新聞



発電所の外観



トレファイドペレット

宇部興産 木質炭化燃料の実証設備に着工

年間6万t生産 石炭と混焼発電

宇部興産は、宇部本社工場内に木質バイオマス炭化燃料「トレファイドペレット」の実証設備を整備することから、今年4月に着工し、2019年10月に完成予定。原料となる木質ペレットは、カナダの「Pinnacle Renewable Energy」社から調達し、宇部港に輸入する。実証設備で炭化し、年間6万t生産。同敷地内の石炭火力発電所やコージェネレーションセンターで石炭と混焼させる。

000kg)では、06年7月に木質燃料用の粉碎機(ミル)を増設して以来、石炭と家屋解体材等由来のリサイクルチップによる混焼発電を行ってきた。同社が開発したトレファイドペレットは、耐水性や石炭との混合粉砕性を大幅に改善。石炭との混合保管・輸送・粉砕・混焼を可能とした。同社は、年間約8万tを生産しているリサイクルチップに加え、トレファイドペレットを活用する方針とした。また、同発電所は再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の認定を受けており、まずはトレファイドペレットの混焼による発電収入増を図る。担当者は、「将来的にトレファイドペレットの商品化を目指す。今後も環境負荷低減に貢献する技術・製品の創出、拡大を推進していきたい」と話した。

2018年5月7日
循環経済新聞